



関高進路さくら便り



さくら塾『特別支援教育講座』



12月20日(火)に関高校の卒業生で、岐阜清流高等特別支援学校の教諭、奥田早也佳先生と三輪侑生先生、本校の村本香菜子先生より特別支援教育についての講義をしていただきました。特別支援教育とは、障がいのある児童・生徒の自立や社会参加に向けて、一人一人の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善したり克服するために支援を行う教育のことです。一人一人のいいところを伸ばす、個々に合わせた授業が行われています。



特別支援教育には以下の3つがあります。

■ 特別支援学校

特別支援学校とは、障がいのある子どもに向けた学校です。幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる授業内容でありながら、障がいによる生活や学習面の困難の克服、自立に必要な知識や技能を習得することを目的とします。対象となる障害は5つで、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱です。衣服の着脱・歯磨き・排せつなどの日常生活の指導を行ったり、遊びを通じて身体活動や仲間との関わりの中で心身の発達を目指します。中等部高等部では働くための意欲を学ぶ作業学習や、主体的に困難を改善し自立を目指す自立活動も行われます。

■ 特別支援学級

障がいの比較的軽い児童生徒が通います。障がいのある子供のために、通常の小学校や中学校内に置かれる学級のことで、通常学級での学習が難しい児童を対象に、少人数制のクラスで授業を行い、一人ひとりに合わせた学習を行うことを目的としています。緑ヶ丘中学校では、「門松づくり」が行われていて、ものづくりから販売までを行い、数学や国語などの教科の学習を生活に近づけて指導します。社会に出たときに役立つ教育が行われています。

■ 通級による指導

小・中学校に通う比較的障がいの程度が軽い子供が個別の指導を受ける教室のことです。言語障がいや難聴、肢体不自由、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥多動性障がい)通常学級のクラスに籍を置きながら、週に何時間か通級に通います。LDやADHDの人は、人と関わりや気持ちのコントロールが難しいので、トランプなどの遊びを通じて自分だけではなく相手も楽しめるように理解してもらうよう工夫しながら指導します。



参加者のみんなは、「コグトレ」に

参加しました。左の写真は、「コグトレ」中でボールを使って機能訓練をしている写真です。コグトレとはコグニティブトレーニングの略で、実施することで認知機能が強化され、見る聴く力の強化、対人スキル向上、気持ちのコントロール、身体的不器用の改善につながります。真ん中の写真は「摂食指導」で、個々の食携帯に合わせて2次調理をしています。食パンを小さくして牛乳に浸して食べやす

くします。右の写真は、ご存じ「ボッチャ」です。ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者や四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

三輪先生よりメッセージ

車いすの人に「気をつけて何でもやってくれようとしてくれる人はありがたいです。でもやれることは自分でやれるので、どうしてもやれない時に手助けしてほしいです。」と言われたことがあります。過度に手をかけすぎないようにしています。大学生になってから特別支援教育の教員を目指しました。少年自然の家で知的障がいの子のボランティアをしたことがきっかけです。遅いけれど、少ないけれど、生徒の成長が見れることがうれしいです。後輩の皆さんは、ぜひ3年間で胸を張ってやり切れたと思えることに打ち込んでほしいと思います。



奥田先生よりメッセージ

障がいの有無ではなく、どういう大人になってほしいか、本人がどんな大人になりたいかを大切にしています。一人の人として接しています。私の兄が特別支援学校に通っていて、私自身が教員志望だったのが特別支援学校の教員を目指した理由です。ゆったりとした中でも小さな「できた」に喜べるこの仕事はいいなと思っています。今日はたくさんの人が特別支援教育に興味を持ってくれてすごいなと思います。興味を持つことは、世界が広がります。後輩の皆さん、これからもいろいろなことに挑戦して下さい。



社会には障がいのある人、病気のある人、高齢者、LGBTQの人など、いろいろな人がいます。誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の実現に向けて、今日の講義はとても勉強になりました。今日の参加者の中には、すでに特別支援学校の先生を目指している人が多く、共生社会の実現に向けて頑張るワカモノたちをととても頼もしく思いました。さすが関高生ですね。

地方国公立大学は魅力がいっぱい⑤

特別支援教育が学べる大学を紹介します。岐阜大学・愛知教育大学・大阪教育大学などの教育学部がある大学や、筑波大学・金沢大学の人間学系でも研究できます。

岐阜大学教育学部特別支援教育講座



特別支援教育講座では、特別な教育的ニーズのある児童・生徒に関する教育学、心理学、指導法、などを専門的かつ実践的に学習します。そして、特別支援学校教諭（聴覚障害）（知的障害）（肢体不自由）（病弱）一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得します。さらに、多くの学生が中・高等学校教諭免許状も併せて取得を目指しています。卒業後の進路は、特別支援学校教員が中心ですが、小学校教員へも就職しています。

《研究室の紹介》

- ◆ 研究のテーマはことばと聞こえの問題です。特に、ことばが滑らかに話せない吃音（きつおん）、文字の読み書きが苦手なディスレクシアについて、特徴を生理学的に解明したり、支援の方法を考えたりしています。学生のみならずには、卒業論文や教育相談を通して問題を理解し、根拠のある支援を考案する方法を学んでもらっています。
- ◆ 自閉症を中心とした発達障がいのあるお子さんへの支援方法について、応用行動分析学から学びます。その特徴は、お子さんの行動の理由を周囲の環境とのかかわりの中で捉え、そこから支援を考えるところにあります。とくに、お子さんの肯定的な経験を高め、もてる力を発揮させる支援について、Positive Behavior Support から検討します。

読んでみてほしい本

原作は、「週刊少年マガジン」に掲載されていた大今良時さんの漫画「聲の形」です。映画化もされた作品です。障がいの有無だけではなく、自分とは「違う人」を理解することはとても難しいですが、それは社会生活を送る上でとても大切なことです。ぜひ一度読んで考えてほしいです。

主人公の少年は、小学生のときに転校してきた耳の不自由な少女に好奇心を持ちます。その後、あるきっかけから自分自身がクラスから孤立してしまいます。それから5年の時を経て高校生になり、少女と再会した主人公は、過去の過ちと向き合い、自分の思いを伝えることで、少女や当時のクラスメイト達とお互いを理解し合い、自分自身をも受け入れていきます。